

新収蔵品 本邦初公開 野々村仁清 幻の色絵茶壺

4 / 16 (土) ~ 6 / 19 (日) ※会期中に休館日あり

- ・ 京焼の祖と呼ばれる野々村 仁清作の中で、特に声価の高い色絵茶壺は、国宝の「色絵藤花文茶壺」を筆頭に、計12点の存在が分かっています。
- ・ しかし、「色絵牛図茶壺」だけが図版でのみ、その存在が知られており、一般に公開されることはありませんでした。



野々村仁清「色絵牛図茶壺」江戸時代
口径9.8cm 胴径20.0cm 底径10.4cm 高24.4cm

- ・ 今回、この幻の色絵茶壺が当館に寄贈され、本邦初公開いたします。
- ・ この機会に、仁清による陶芸の装飾美術をお楽しみください。

解説

形状は肩に四つ耳を付けた肩衝茶入形であり、据部分を残してやわらかな白濁釉を掛け、その上に黒と飴色の成牛2頭、黒の子牛1頭が狩野派風の画風で描かれている。

また、余白には、下草や一叢のススキが薄緑の線描で描かれている。

仁清の茶壺は数が少なく、未公開の本作が当館に収蔵されることにより、今後、仁清の研究の進展に寄与する貴重な作品である。

【野々村 仁清(ののむら・にんせい)】(通称 清右衛門)

- ・ 丹波国桑田郡野々村(現在の京都府南丹市美山町大野)の生まれ(生没年不詳)。
- ・ 若い頃に粟田口や瀬戸で陶芸の修業をした後、京都に戻り、正保年間(1644~1648)頃に仁和寺の門前に御室窯を開く。
- ・ 作品が他に抜きんでいたこともあって、「仁清」(仁和寺の「仁」と清右衛門の「清」)の印を捺すことを許され、自分の作品であることを主張する目的で印を使った最初の陶工と言われる。



仁和寺 国宝「金堂」

福井県立美術館

福井市文京3-16-1
TEL0776-25-0452
(県立藤島高校前)

一般・大学生 100円
70歳以上、高校生以下 等 無料
4/17(日)、5/15(日)、6/19(日)は全て無料